

# 赤池誠章先生の早期支部長復帰を求める要望書

## 要請事項

- 1・赤池誠章先生の早期支部長復帰を求める。
- 2・他、出馬の意欲がある前職議員、活発に行動する者を優先し、支部長の早期選定を求める。
- 3・地元県連内での調整に対し、党本部、及び他現職議員より「アドバイス」や支援を行うことを求める。

## 要請の理由

まったく読めない政局ではあるが、解散がいつあるかわからない情勢が続いている。支部長を増やすことで財政上の問題が発生することは理解できるが、保守政党の躍進、再度の政権交代を希望する一国民としては、「選挙に勝って頂き、左派・売国政党を打倒して欲しい。」ということをや要請の根本に置く。民主党政権打倒を希望する国民として、支部長の早期選定を求める。

当然のことではあるが、現状の議席では、政権奪還はならない。前職の復帰、新人の誕生が一定数必要となる。次期候補者として、政権奪還に必要な人材こそが、支部長であると認識している。緊急の解散があったとして、突然立候補せよと言うのは、あまりに無謀である。長い準備期間が必要だ。我々国民の希望を背負い、立ち上がる挑戦者たちの全てが良い結果を得られるとは考えにくい。その中では、早期に支部長に復帰しておれば勝てた戦いも出てくるかも知れない。結果、議席が足りず、打倒に失敗する可能性も否定できない。民主党政権打倒を希望する国民として、支部長の早期選定を求める。

### 納税と政党助成金～財政問題に対する所感

我々一般国民が納税した中より、政党助成金という形をもって個人献金に代え、各政治家に分配されると理解している。中には左派的な国民、保守的な国民など多々あると思う。そのため各政党に分配されるのだろう。我々は、このことを誇りに思い、納税している。我々が信頼する保守政治家、保守的な予定候補者たちにも分配されるのだろうと考えるからだ。よって一国民としては、納税という国民の義務を果たしているのだから、我々の希望を背負い、日々活動に邁進する前職議員たちに、活動費や日々の生活費を工面できていることを求めるのは当然のことだと考えている。

### 民主政権打倒を担う人材の活動の苦しさを想像すると涙が出る

支部長復帰がならず、浪人中の予定候補者たちは、献金の道も絞られ資金難に喘ぐ。次期選挙資金を調達しながら、事務所を閉鎖し、秘書官を整理し、作り上げてきた事務所機能を喪失していく。日々の生活も苦しいのではないだろうか。国民は、自分たちの声を届けてくれた熱い先生たちを愛している。ゆえに党員となり、党費を納めることに誇りを持ってきた。多くの保守活動が、言論活動が党勢拡大の一助に、若い党員の確保という成果に結実したことは疑いようがない。

### 党員・支持者の期待と党の方針の乖離

国籍法問題で、国民に再発信すると共に、保守としての譲れないラインはどこかを示した西川京子先生も、支部長復帰がなっていない。日教組問題に言及したため、閣僚辞任をなされた中山成彬先生。取り上げたことに喝采を送った自民支持者、党員は相当数に登るだろう。多くは熱烈な保守支持者だ。自分たちは主流派ではないと、世の批判に対して我慢してきた。暗い世情において嬉しいこともある。政権交代後のひどさ、君が代の最高裁判決などを経て、国民はいまこそ中山成彬先生への評価を改めつつある。党がとってきた行動は、支持者・党員とは乖離している。閣僚辞任までは政権維持のためなら、致し方ないのかと理解しようとした。しかし、地元事情はあったと思うが、選挙においては公認されず、落選のちは政党間の議席交換により長年守ってきた選挙区さえも奪われた。結果として他党への移籍となる。支持者として、情けなく、悲しく、そして我々のため体をはってくれた先生に申し訳なく思う。古くは、衛藤晟一先生の選挙区喪失の問題もある。政党間の盟約のため、政権維持のため、より大きな大義のため、と理解しようとはした。しかし、あれはひどい。にも関わらず、衛藤先生がいまだ自民党に残ってくれていること、その後姿が支持者の怨嗟に近い疑問の声を押しとどめていることは、多くの方が感じているだろう

## 提出先

自由民主党党本部  
自由民主党所属議員  
自由民主党各県支部連合会

平成二十三年 月 日  
住所) 福岡県行橋市今井 3713-1  
氏名) 小坪慎也

## 署名簿がある場合

外) 5500名 (署名簿記載人数)

発行: SNS-FreeJapan (<http://sns-freejapan.jp/>)  
著作: 株式会社カウンターカルチャー  
代表取締役 小坪慎也

## 赤池誠章先生の功績

現在、JNSCを代表とする若手保守支持層が台頭してきている。若い世代を中心に、日本の国益を見据え、伝統・保守への回帰が著しい。このような喜ばしい動きが発生する過程で、赤池先生の果たした功績は計り知れない。事実、全国より自民党員を 1000 名以上入党に導いていたと伝え聞く。多くの保守議員の活動、また多くの先生からの政治発信による成果だが、その中でも赤池先生の功績ははずせない。若い支持者達の新しいうねり、その発端の一つとなった「国籍法」騒動において、赤池誠章先生は現職議員としてブログでの活動報告を実施。委員会の審議を踏まえ、メディアによらず一次ソースを発信し続けたのだ。政治ブログランキングでは連日上位に食い込み、現職議員による国政報告の新しい形態を示すと共に、メディアに依存しない新しい政治発信の手法を有権者に対して、実績として提示してみせた。

赤池氏からの情報を一つのきっかけとして、（現在に比較すれば）まだ民度も浅かったインターネットユーザー達は、FAX やメール等による諸団体・議員への働きかけを行う。結果として国民新党は政党としての意思表示を示し、既存の大手保守団体すらも活動を開始した。サロン化し、自己研鑽と言えはいいが、政治談議のみに終始していたネットユーザーたちが、実態ある政治活動・ロビー活動を開始した歴史的な転換である。その渦の中心に、まさに赤池誠章はいた。

逆風の中、議席を失う。その後、何があったか。スタートラインとした者も多い、この赤池ブログ。yahoo ブログというサービスを利用していたが、落選後、赤池先生の意志によらず削除されてしまい全てのデータが失われてしまう。現職議員であった時代のものも含めてだ。Yahoo の社長といえば、菅直人首相に急接近している孫正義氏だ。国籍法関連の記事や、愛国心に満ち溢れた記事、そしてインターネットを媒介とした「メディアを通じない有権者への政治発信」が大規模にうまく言った実例は、邪魔だったのだろうかとも邪推する。事実、当時はよちよち歩きだった彼らは、一部は立派なロビイストとなり、また一部は JNSC 会員として、また一部は党員として皆さんを支えている。簡単に証明する手立てがある、本要請文を記述している筆者も、かく言うその一人だからだ。この要請に触れている時点で、赤池氏が撒いた種は、確実に萌芽していると断言できる。

赤池ブログ削除後、私たちは怒り狂った。当時より SNS 事業を展開していた私は、憂国の技術者たちに呼びかけた。個人的な知人ではあるが、最前線で活躍する一流の web 技術者たちだ。完全にデータの消えたブログを、インターネット上のキャッシュデータより復元し、プロデザイナーによる美しいブログが誕生した。これらは、赤池先生には一切無許可で行われた。力を入れすぎたため、公式 HP よりも公式っぽいものが完成してしまったと笑ってくださったのは最大級の賛辞であった。赤池先生のためというのものもあるが、学ばせて頂いたあの珠玉の記事たちは、私たちの始まりの場所は、絶対に奪われたくはないものだった。残したかった、守りたかったから、作ったのだ。最下段には、FreeJapan 技術部と銘が入る。当社サーバー内に格納され何人たりとも削除は許さない。今度は私たちが守るのだ。

## **党内左派の跋扈を感じる、保守支援者としての悔しさ**

少し恥ずかしい事情もある。国籍法の強行可決に際し、唯一止められたであろう衆院法務委員会。比例選出ではあるが山本幸三氏が法務委員長であった。筆者の選挙区は、福岡11区、我が町の議員こそが、まさに赤池先生の敵となる格好であった。国籍法の一件が落ち着いた頃のことだ、赤池先生は法務委員ではなくなったように思う。事実かはわからないが、罷免・懲罰人事に思えてならなかった。そこまで邪推せざるを得なかった。自分の選挙区を、恥じた。だから、何かお返しをしたいと思ったのだ。少しでも力になりたかった、守りたかった。そして、その思いは、共通のものであった。現在、当 web サービス (SNS-FreeJapan) 単独でも年間アクセス一億 PV を刻む。その多くの会員が、利用者の多くが、同じ思いでいるのだ。

**守って欲しいのだ、私たちの赤池まさあきを！**

**いつも身を挺して、我々を守ってくださった、大事な人なのだ。**

**お願いします、赤池先生を守ってください。**

**支部長復帰がならず、予定候補者として押していいか支援者は悩む。**

**日々の活動費はかさむが、個人献金に換え与えられるべき公金は支給されていない。**

他県の県連に口出しすることの難しさはわかる。我々としても国会法に基づく請願を主な活動の一つと位置づけているため、そして紹介議員の多くは自民党議員であるため、このような苦言に近い要望をあげて自民党にあげるとは本当に恐ろしかった。結成より二年と短いブランドとしては短いものだろう、しかし大事なブランドであり、私たちの拠り所なのだ。このような要望を出せば、もう二度と紹介議員などではもらえないかも知れない。ロビイストとしての政策集団、FreeJapan は終焉を迎える可能性だってある。口にすること、本当に勇気がいった。だが、しかし。いつかは誰かが言わなければならない。赤池先生は逃げず、私たちのために戦ってくださった。だから、私たち支援者も逃げてはならないと思った。

難しいこと、怖いという思い。それは先生方や党関係者も同じことなのだとわかっている。しかし、それでも、あえてなお、口を開きたい。このままでいいとは思えません。どうか、アクションを起こしてください。

少し長い話になりますが、お付き合い願います。私たちがなぜここまでするかという背景になります。それは、きっと自民党議員や党関係者も、うまく説明できない「新しい支持者たち」の存在を理解する助けになることだと思います。私たちが何を考え、どうして自由民主党を応援し、そして先生方のため働きたいと思っているのか、です。知って頂くことで、きっと「これから」が開けるものと信じます。感情に任せて書くべしと信じるため、一部厳しい発言もあるかと思いますがご容赦ください。

## 自民党の支持の脆弱性～守られてきた者として

若手保守が、結果として自民党を強く支持しているのは「自由民主党」というブランドや組織を愛しているから、とは言えない。このひどい有り様において、「自分たちが守られてきた」という強い恩義を感じてのことだ。政治生命を賭して、私たちの未来・ひいては子供たちの将来を守る姿に、恩を感じてのことだ。それは政党に対してのものではなく、所属議員、個々人への恩なのだ。その集合体として、結果としての党の支持がある。これを履き違えては、大きな危険があるように警鐘を鳴らす。支持者の若返り、党政の盛り返しの将来図が見えてきた昨今だが、これが根底から覆ってしまうリスクがある。

新しい若手保守支持層には、切実なまでの恐怖・絶望があり、その中に指す一筋の光を希求している。議員個人への恩義が、結果として政党支持に結びつく。その「議員」とはいったい誰なのか。それを大事にできねば、政党への支持を失うだけでなく、凄まじいまでのアンチ勢力となって自民党に襲い掛かるだろう。「恩人の敵」であると認識すれば、凄まじいまでの支援は（その議員個人への支持はそのままののだが）議員個人を支持するゆえに自民党に牙をむく可能性は極めて高い。すでにその兆候は見てとれる。

保守層が熱狂し、そして「知ること」で涙を流しながら急速に支援の輪が広がる若手支持者、彼らの愛した、彼らが「この方が守ってくださった」と感じている議員は、果たして大事にされてきたか。よく考えて頂きたい。平沼先生は、離党なされた。日教組問題を閣僚として取り上げてくださった中山成彬先生は、バッチをリスクに晒してまで党に忠誠を尽くし、ぎりぎりまで公認を待った。にも関わらず公認を得られず、結果として落選。若手議員との議席交換の結果、仮に自民党に復帰したとして長らく守ってきた選挙区は存在しない。帰る家がないのだ。どれだけ長い年月、この党に寄与してきたかは、いくら若者であっても理解できる。

古くは衛藤晃一先生だ、筆者は県境はまたぐは隣接選挙区になる。公党間の、より大きな大義のためとは言え、あそこまであからさまな「いじめ」はドラマでも見たことがない。そもそも郵政選挙の実態を、国民インフラの利益率の高い部分、また国民の預貯金を「米国の投融資」に転用したいという米国からの意向があるのではないかと、若手支持者たちの中では、当然の常識となっている。また実際には「皇室典範改正」が水面下での踏み絵となった側面もあり、それをもって党内左派をまとめあげた可能性についても示唆するレベルに至っている。

国籍法で国会を出た西川京子先生も支部長復帰がならず、ならないだけではなく比例現職が小選挙区を鞍替えしようとしているのではないか。西川先生からも選挙区を奪うのだろうか。それを自民党は黙って見ているつもりなのだろうか。

自民党は、どうするのだろうか。若手支援者達も、党がどう采配するのか見ている。所属議員は、仲間を助けるのだろうか。苦しい時、助け合えるのが組織・団体だと考える。自民党が「団体」なのか、それとも相互利益のためだけの烏合の衆であるか。若手支援者たちは、自民党を見ている。かつての忌まわしい事例は、現在では改められており、「新しい自民党」がそこにあると信じつつ、支援者たちは見ている。動くのか、動かないのかを。

## 赤池誠章への対応で示されるスタンス

赤池誠章先生という存在は、その中において最もスタンスを明示することができる存在だと宣言する。スタンスの明示とは、自民党とは「私たちを守ってくれた先生」を守ってくれる存在なのかどうか。「私たちが愛した先生」をサポートしてくれる存在なのか。それとも、私たち有権者の思いや願いとは、政党にとっては「ただの道具」であり、あたかも客寄せパンダのように、私たちの大事な先生を、恩義ある方を見殺しにする存在なのか。敵であるか、味方であるかを、赤池先生への対応で推し量る支持者は少なくないだろう、ということだ。

私たちには、大好きな先生がいる。自民党に党籍を置く先生も多い。一つの事例として、私たち SNS-FreeJapan (以下、FJ と略す) が進めてきた国会法に基づく請願、その紹介議員の先生方は、身を賭して国民を守る、まさに国士である。私たちの請願は、領土問題、外国人問題、国家観を問うもの、メディア問題、いずれも扱うことが難しいテーマだ。また、固定の団体に属さぬゆえ組織票としてあてにできる「一般の生活」など、苦勞のわりに利の薄い請願ばかりだ。票にも金にも、ならない。それもわかって名を連ねてくださっている。だからこそ、いつかは票でも金でもないかも知れないが、是非とも力になりたいと応援するのだ。今では聞かれなくなった、古い言葉、「政治と選挙の信義則」を我々は守ろうと誓ったのだ。永続的な、生きている限り、可能な限りの支援の声を、ずっとあげようと誓ったのだ。それは、若手保守支持層、全てに共通するものだと筆者は断言したい。

難しい問題に取り組んだ、その先生方が困った時。当然のこととしてバッシングにあった時、自民党は見捨てるのか。それとも守ってくれるのか。私たちの大事な人なのだ、ただの一人も無碍にはできない、大事な大事な人たちなんだ。その人たちを、ちゃんと守ってくださるのか。

## 紹介議員一覧～衆議院議員

岩屋毅 (大分三区) 北村茂男 (石川三区) 田中和徳 (神奈川十区) 高市早苗 (奈良二区) 新藤義孝 (埼玉二区) 稲田朋美 (福井一区) 古屋圭司 (岐阜五区) 加藤勝信 (岡山五区) 武田良太 (福岡十一区) 柴山昌彦 (埼玉八区) 小池百合子 (東京十区) 小野寺五典 (宮城六区) 下村博文 (東京十一区) 甘利明 (神奈川十三区)

## 紹介議員一覧～参議院議員

松村よしふみ (熊本県選挙区) 中川まさはる (東京都選挙区) 宇都隆史 (全国比例) 島尻あい子 (沖縄選挙区) 山谷えり子 (全国比例) 大江康弘 (全国比例) 佐藤正久 (全国比例) 熊谷大 (宮城選挙区) 義家弘介 (神奈川第十六支部長) 三原じゅん子 (全国比例) 有村治子 (全国比例) 宇都隆史 (全国比例) 衛藤晟一 (全国比例) 鴻池祥肇 (兵庫選挙区) 岩井茂樹 (静岡選挙区) 西田昌司 (京都府選挙区) 山田俊男 (全国比例) 野村哲郎 (鹿児島県選挙区)

大事な人を、守ってくれる組織なのか。そのスタンスを最も強く示すターニングポイント。それが赤池誠章先生の、支部長問題に相違ないと断言する。

### **赤池誠章たちが育てた支持者の質と思想**

赤池先生だけの功績ではなく、多くの方の影響を受け、全体での功績である。そのため全体論になるが、赤池先生たちが撒いた種がどのように育ってきたのか、知って頂きたい。若手支持者たちがどの程度の勉強をし、どのような思想をもっているのか。筆者の私見によるものを排除しきれているとは言えないし、また本レポートは一般レベルよりはやや高いかも知れない。しかし、その差もそう長い時間をおかず、すぐに同様の質に向上するものとする。情報化社会、IT 技術を考えれば自明のことではないだろうか。若手支持者たちは、先生方の仲間だ、肩を叩き合える仲間であることを伝えたい。怒りや悲しみ、つらさを、今までの歴史を、若者たちは共有している。メディアが作り上げる「支持率」と「世論」により、つぐみ続けた口を、開ける相手であることの証明を行いたい。彼らが見てきて、そして感じていること。感じた恐怖を、求めた希望を。

現職議員の多くや党関係者は、思い返して頂きたい。多くが納得され、忘れえぬ怒りを再度思い返すだろう。この国で、何があったのかを。新しい保守支持層は、あなた方と同じく、それらを知っている。そして知りたいと願っている。その努力を惜しまない。

麻生政権が倒される前後のメディアの横暴、古くは小渕内閣におけるバッシング。小渕内閣においては、一発の銃弾を使うことなくチャイナロビーを黙らせた手腕。「二千円札」という紙幣、またサミットを開くことで、世界に対して「沖縄は日本」と発信した。最高の、世界への広告になった。小渕内閣が、どのような末路を辿ったか。小渕内閣が、どのように報道されたか。その実績を国民は、有権者は知っていたか。皆、忘れえぬはずだ。あの怒り、悔しさを。あわれな国民は、目を塞がれ、自身を守ってくれたはずの偉大なリーダーを踏みにじられてきた。椿事件や朝日 KY 事件など、報道の歪みによる罪、その証左は枚挙に暇がない。正しく投票基準すら明示されず、投票行為のみを任されることは、すでに議会制民主主義の体を為しているとは言いがたい。

### **小渕内閣～国益を論じることへの受難**

小渕内閣を振り返るにあたり、その首相秘書官をはずすことはできないだろう。首相秘書官になった際は、まだ二十五歳、逆算すると大学卒業後三年、つまり社会人経験は僅か三年。父のぼろぼろな姿を見て退社を決意、首相秘書官になったという記事を読んだ。当時の写真を HP で拝見したが、楽しそうな笑顔は、我々と同じ笑顔で、本当に普通の学生であった。突然の政局、動乱。その苦労たるや凄まじいものだったろう。

首相である父の急逝、首相拝命時より体調は万全とは言えなかったとも聞く。命を賭け、通した法案の数々。政策型であれば、どれだけの重要法案を通してきたのか、ご存知のはずだ。ガイドライン法案は、テロ特措法となりインド洋を守り、いまは日本のシーレーンを守る。金融再生法案、国旗・国歌法、憲法調査会設置、枚挙に暇がない。命を懸けた法案の数々は、今も国民を守り続ける。一人の、普通の女の子の父の命を犠牲として。それが果てしなく申し訳ない、何もできなかった無力感。何も知らなかったことが申し訳ない。中には、あまつさえ扇動され、共に叩いた者もいた。その後悔、悲しみたるや！！

国益を論じることへの受難は続く。「これは弔い合戦だ！」と涙ながら絶叫した小渕優子議員を、二十代の候補者を、メディアはどう扱ったか。笑い飛ばし、否定・非難し、その父と同じくずたぼろにこけおろしたではないか。

「いじめ」は未だに続く。現在においては、こんにやくゼリーの一件にしてもそうだ。餅より危険とも思えない、確率論で論じればそれ以上に危険な食品など多数あろう。目の敵にするのは、小渕首相がこんにやくを関税の一件で守り、こんにやくゼリーという新商品で今も行き続けるからではないのか？だからこんにやくゼリーのみをいじめ続ける。誰が、こんにやくゼリーを守るのか？自由民主党は、所属議員は、商品としていまだに生きる小渕首相を守ってはくれないのか？こんにやくゼリーへの不当な扱いを、あのような歪んだ報道から、守ってはくれないのか？

だから、私たちは小渕優子を守るのだ。もう二度とあんなことは許されない。小渕首相には、恩を返せぬ。だから優子さんを守る。だから自由民主党を支援する。その政党への支援は、結果論である。一部のネット支持者には、根強い小渕優子ファン。彼らは「これはお父さんのぶん、そしてこれは新人のとき応援できなかったぶん」と口にする。その意味と覚悟が伝わるだろうか。

#### 麻生内閣・安部内閣～メディアの横暴への気づき

麻生内閣が、景気回復、リーマンショックにおいてどのような政策を講じてくれたか。それによってどれだけの雇用が守られ、私たちの生活を守ろうとしてくれたか。中川昭一財務大臣が、世界金融危機にて世界をどのように導き、国内のみならず世界すら救ってみせたこと。IMFからの史上想定されうる中で最大級の賛辞を受けたこと。にも関わらず、国内メディアは朦朧会見とのみ終始したこと。それらの偏向の過程は、報道記事を常に時系列に組み立て、報道体制を監視してきた。

(参考：報道監視まとめwiki SNS-Freejapan協賛サイト<http://www15.atwiki.jp/houdou/pages/72.html>)

安部内閣における実績の数々。国民投票法。メディアが叩いた「美しい日本」という言葉は、今であれば、メディアの誘導さえなければ、多くの日本人が賛同するだろう。あれを誘導として何と言おう。憲法改正のための国民投票法、自民党が長らく党是として掲げた目的に対し、一步踏み込んだではないか。教育基本法の改正、サミットにおいては「日本人拉致問題の解決」を盛り込ませた。(ハイリゲンダムサミット 2007)新潟中越沖地震においては、発生当日に遊説を打ち切り現地入りした。体調問題とばかり揶揄されるが、実際にはテロ特措法の延長を危惧してのことと語られている。その延長は、日本のシーレーンを守るべく、ひいては産業を、国民生活を守るためだ。民主党(当時、小沢代表)より党首会談を断られたため、「(中略)このまま自身が首相を続けるより新たな首相のもとで進めた方が良い局面になると判断した」「私が総理であることが障害になっている」と、何よりも国民のため身を引いたのではないか。国民は、安部普三先生に、真実を知った今、感謝している。それが自由民主党への支持となっている。これらの事柄は、繰り返しになるが枚挙に暇がない。命を賭して、国民を守ってきた姿。お涙頂戴の、捏造の美談ではない。真に血の流れる、悲しい物語、知るべきであったのにその術をもたず、知らなかったとはいえ共に責めたことへの後悔。その懺悔と自責の思い。そして守られてきたことへの感謝と恩義。まさに選挙の「信義則」である。それこそが若手保守を、我々を行動させるエネルギーである。



「神の国」発言の全文を、若者たちは調べ、共に伝え合っている。森内閣によるあの発言は、全文で読めばなんらおかしい点はない。切り取りと、誇張。そして世論の誘導。内閣すらも倒せる、国会の議席すらも操作できる、メディアからはそのような傲慢な態度が見て取れる。だから悔しいのだ、あの時わからなかったから、知らされなかったから、守れなかったから。

まだ語り足りぬ点は多々ある、触れるべき事例が多すぎる。報道により隠されてきた実績という扱いのため、触れぬことが失礼になる可能性もあるが、この場合は紙面の都合でご容赦願いたい。ご理解頂きたいのは、若手保守たちは、web ツールを駆使し、本当に多くの情報を主体的に入手している点だ。国会中継を（カットされる NHK ではなく）国会 TV からのアーカイブデータ、及び特に注目すべき点をまとめあげた解説動画などを各動画サイト（ニコニコ動画、youtube）にて閲覧している。電通の意向、スポンサーの意向に左右され、偏向していると言わざるをえないレガシーメディアを経ずして「ほぼ一次ソース」をソース・題材として議論している。

その情報量たるや、まさしく凄まじいもので、我々 Fj が国会法に基づく請願を相当数作成してきたことに驚かれた先生もいたが、私たちは不思議とそれを「当然のこと」と感じてしまった。そう、若手支持者たちは（中には怒りからか粗暴な方向に走るものもいるが）果てしなく勉強している。その原動力は、怒りと悲しみだ。明日への恐怖、子供たちの将来を守りたいという生存欲求だ。想像以上のエネルギーを発揮し、信じられない速度で勉強をしている。

彼らを甘く見てはならない。いずれも本気なのである。命がけと言ってもいい。まだ政治・選挙の経験が浅いため、粗相もしよう。民度の低い者もいる。生ぬるさを感じたこともあるやも知れない。だが、しかし、このクラスの評論を素人が書き上げてしまう時代が来たのだ。少なくとも我が Fj においては、これと同様の研鑽を二年間に渡り、毎日毎日繰り返してきた。支えること、議席を守ること、信義則について語ってきた。本書の理念と、当 SNS の利用者の質は、そう変わることはない。

私たちは、自民党を支持したいのだ。心より信じて、自由民主党を応援したい。しかし悲しいかな、そこには溝がある。その溝を埋める最初の一步、それが赤池先生の支部長復帰だ。これは党本部、現職議員のサポートによって成されることを希望する。なんのための政党、党本部なのかわからないからだ。

最後に、再度、赤池先生の支部長復帰をお願いしたい。他県連ではあるが、党本部における主体的な方針の指示、早期選定への助力をお願いしたい。政権奪還のため、来るべき選挙においては候補者は多数必要だ。現有議席では奪還はならない。新人の当選、もしくは前職の復帰がなければ奪還はならない。当たり前のことだ。予定候補者と見なされる支部長を選定しないということは、政権奪還の意思があるのかと怪しまれても仕方ないだろう。難航する選挙区においては、政党および現職議員の主体性を発揮して頂きたい。そうすることで、我々 FJ という小さな組織からではなく、今後も増え続ける新しい支持者からの支援を確たるものとし政権奪還の一助となし、そして奪還後の安定政局の構築にも寄与することと信じる。

SNS-FreeJapan 代表 小坪慎也